

令和3年度 第2回みんなで支える森林づくり松本地域会議

開催日時 令和3年12月8日(水) 午前10時30分～正午
開催場所 松本合同庁舎講堂
出席委員 久保島委員(塩尻市森林公社)
佐藤委員(座長、森林環境教育研究室室長)
武井委員(松本広域森林組合代表理事専務)
田原委員(安曇野市耕地林務課主任)
平島委員(自然エネルギーネットまつもと代表)
事務局 草間松本地域振興局長
向山林務課長
小日向課長補佐兼林務係長
福嶋課長補佐兼林産係長
太目課長補佐兼普及係長

会議事項

- (1) 令和3年度森林税活用事業について
- (2) 令和4年度森林税活用事業について
- (3) その他

<委員からの意見等>

- (1) 令和3年度森林税活用事業について
(田原委員)「薪によるエネルギーの地消地産推進事業」は、今年度取り組みが無いということですが、これまでの経過、申請状況を教えてください。
(太目補佐) 令和元年度に四賀林研グループが事業を実施した経過があります。令和2、3年度には要望がありませんでした。松本管内ではありませんが、令和2年度に伊那市、天龍村、売木村等で事業実施がされています。
(平島委員) 森林税活用事業の取り組み成果について、県民にどのようにわかりやすく見せているのでしょうか。みんなで支える森林づくりレポートの松本地域版は作成されているのでしょうか。
(向山課長) みんなで支える森林づくりレポートは、県の全体版は作成していますが、松本地域版は作成していません。
今年度、森林税の広報活動の取り組みとして、事業写真を載せたカレンダーポスターを作成して、配布したいと考えています。
また、地域会議の内容をホームページで公表しています。
(平島委員) 一般の方に、森林税事業の効果をわかっただけの工夫が必要と思います。カレンダーもいい取り組みだと思います。カレンダーはPDFをダウンロードができるようにすると良いと思います。
(向山課長) 委員がおっしゃるとおり、カレンダーはホームページに掲載し、ダウンロードができるようにしたいと思います。また、カレンダーは市村に配布し、公民館に掲示していただこうと考えています。
(佐藤座長) 何らかの形で森林税のPRをお願いします。
(久保島委員) 森林税について、知らない人にはピンとこないため、そういった人に向けた広報をしていくことが大切だと思います。
(武井委員) 森林税事業の要望に対して、実績率がわかったら教えてください。
(福嶋補佐) 「ライフライン等保全対策事業」について、4市村で一千万円を超える要望がありました。400万円しか予算が示されませんでした。
この事業が特に要望よりも下回りました。他の「みんなで支える里山整備事業」の「防災・減災」や「県民協働による里山の整備・利用」等、森林の整備に関

する事業については、だいたい要望どおりの事業が実施されています。

(太目補佐) 「県民協働による里山の整備・利用事業」について、当初要望したものについては、予算が付きましたが、後から追加要望したものについては打ち切りとなり、追加での事業実施ができませんでした。

「観光地等魅力向上森林景観整備事業」については、主に高速道路沿いで事業を実施しています。これにつきましても他の地区で事業要望があったのですが、高速道路沿いを優先的に実施したため、事業ができなかったところが2地区ございました。

(佐藤座長) 四賀村の高速道路沿いは事業実施が終了したのですか。

(太目補佐) そこについては、令和2、3年度と継続して実施しています。引き続き要望があるものと考えています。高速道路沿いの市村には予算をつけているのですが、山形村とか朝日村からも要望がありましたが、そちらは事業ができませんでした。

(2) 令和4年度森林税活用事業について

(田原委員) 「薪によるエネルギーの地消地産推進事業」について、先程、この2年間に事業の申請が無かったと説明がありましたが、何か要綱を使いやすいような形に変えていく考えはありますか。安曇野市でも、薪ストーブのユーザーは年々増え続けており、市にはペレットストーブの補助金はあるのですが、薪ストーブの補助金はなく、問い合わせが寄せられていて、薪に対する需要や要望が増えてくる中で、薪を地消地産できないかという議論があつて、使いやすい補助制度があれば、地域で使われていない山林の広葉樹林化してしまった森林整備の促進に繋がるのではないかと考えています。

(佐藤座長) 薪の利用ですけれど、世界的にも日本でもゼロカーボンを推進していて、ペレットを普及させる方策を、県で積極的に取っていただければ、薪の需要が増えてくるのではないかと、薪のストーブの良さとか需要と供給のバランスをうまく県で推進していただければ、ゼロカーボンに貢献できるのでないかと思われます。

(向山課長) 御意見を県へ伝えます。

(平島委員) 長野県は、ゼロカーボン戦略を打ち出して進めているのですが、ゼロカーボンと森林税事業との連携の状況を教えてください。

(向山課長) 森林税イコールゼロカーボンととらえています。もちろん連携は取っているのですが、特に個別の事業について、強くPRはしていません。やっていることはまさにゼロカーボンの取り組みとして、予算化、事業化を進めています。

(平島委員) ゼロカーボン戦略が打ち出されたことによって、森林税事業が進むとか変わったということが明らかになってこないか、県全体の戦略としては、すごく変だなと思います。

(向山課長) ゼロカーボン戦略により、森林税の取り組みについて、何が変わったかわかるようにしていかないといけないと思います。

(平島委員) PR活動に関する情報提供ですが、松本市仲町の歩行者天国で、商店街振興組合主催の環境関係のイベントを実施しました。そういうことも検討していただいて、一言御相談をいただければお手伝いができると思います。

(向山課長) イベントについては是非、次年度ご相談させてください。

(平島委員) 松本・安曇野地域で松枯れが進んでしまっていて、団体の活動も倒木処理ばかりで、見方を変えると新たな森づくりのチャンスかと思っています。その辺をどうように設計していくのか。どうなっているのか教えていただきたい。

(向山課長) 県の松くい虫対策は、これだけ松枯れが発生している中で、全て処理できないということで、10年くらい前から集中的にやろうということで、本当に守らなければならない松林である「守るべき松林」、「その周辺の松林」、「その他松林」と分けて対応しています。「その周辺の松林」については、分断するために樹種

転換を進めていまして、県全体として、各市町村に「守るべき松林」の見直しをお願いしているところです。それをやるために松くい虫のレベルマップを作成して、それを参考に対策をきちんとやっけていこうとしています。そこで、松本管内としても、マップを活用して、「守るべき松林」を絞り込んで、集中的に守っていこうと取り組んでいます。一方、「その他松林」はバイオマスの燃料にしていく支援をして、その後の山の植林について考えているところです。

(佐藤座長) 松本市の森林再生会議が変遷して実行会議となりましたが、県と連携が取れているのでしょうか。

(向山課長) 県の体制としては、市村に技術的支援をやっけていこうと考えています。松くい虫対策を主体となって決めていくのは市村ですが、市村が決めやすいように、技術的支援や情報提供を行っています。さらに市村が決めたことに支援をしていきます。連携していることが見えにくいことは反省すべきところです。

(佐藤座長) 森林税をかけて松くい虫対策をしたことについて、費用対効果の評価が発表されていないため、発表してもらいたい。

(向山課長) 検証しながら取り組みをやっけていますが、事業効果がうまく伝えられていないことは反省すべき点だと思います。

(佐藤座長) 最近では、松も若い木が増えてきていて、昔ほどは枯れた木が見えない。耐性松があるから大丈夫という議論もある。森林税の使い方は大局的に考えた方がよいと思う。県民の理解を得ながらお願いしたい。

(向山課長) 県の取り組みとして、耐性松を植林して植える取り組みも進めています。

(佐藤座長) そういったことも含めて使い道を決めていっていただきたい。

(武井委員) 事業要望が上がっている事業については、その年度に事業ができるように予算要求をお願いしたい。組合員から要望があっても、できないと伝えなければならぬ。個人個人が森林税を納めているので、予算調整は難しいと思いますが、事業執行ができるとありがたい。来年度は森林税が最終年度となることあるので、その辺のことをお願いしたい。

次期森林税については、県ではどのようなスタンスで議論されているのでしょうか。

(向山課長) 要望については、できるだけお応えできるように予算要求の時に県庁へお願いして参ります。

次期森林税については、県庁でいろいろな御意見を聞きながら検討中だと考えます。

(武井委員) 森林税が始まった当初、獣害対策の緩衝帯整備事業を実施したが、森林は成長するもので、事業をやった時はいいが、何年か経過すると山が成長して元に戻ってしまう。緩衝帯整備として導入、整備したのについて、実態を検証して、当初目的を継続させていくのであれば、そこにも森林税を使うべきではないか。当時整備した意味合いを検証し、事業を繋げていって、里山が継続されるようにしていただきたい。

松くい虫対策については、次の山のことを議論すべき時期で、行政がある程度の方向性を示していくべきだろうと思っています。

(佐藤座長) どのようにしていくか大局的に考えて是非検討していただきたい。

(久保昌委員) 現地視察で見学した場所で、木工製品に森林税のシールが貼られていました。森林税がどういう経緯で使われたのかシールみたいなものが貼られているとPRになると思いました。

(佐藤座長) 宣伝がおろそかにならないようにPRをお願いしたい。

(田畑委員) 森林税を導入したところにステッカーやポスターをいただけると良い。

木づかい空間整備事業で、個人事業主から御相談があっても、使いづらくて利用できないことがある。すそ野を広げるためには多くの民間の方々を使いやす

いように広められると周知も進むと思います。

(平島委員) これからの森をどうするかしっかり議論をお願いしたい。
(終)